

めざして

~大山寺僧坊(※)跡調査の中間報告~

きょういく通信

社会教育課

☎ 0859-54-5212

(※) 僧坊：寺院内の僧の住む建物

教育委員会では大山寺僧坊跡の調査を進めています。これは、大山寺に広く良好な状態で残っている僧坊跡を国史跡として指定することをめざした調査です。

歴史の推測

伯耆大山寺（大神山神社、下山神社を含む）は、大山町のみならず中国地方を代表する山岳寺院です。「大山寺縁起」（大山寺の由来などを絵と文で著した巻物）によると、養老年間（奈良時代）に金蓮上人によって開山されたといわれ、それを裏付けるように三体の銅造の白鳳仏及び宋からの渡来仏（いずれも重要文化財）が今に伝わっています。

謎につつまれた大山寺の

後期に大山の僧兵300人が神輿を担いで京都の院に強訴したことが「中右記」という書物に記されています。そこから、はるばる山陰の地からの上洛に京の人々が驚いた様子がうかがえます。更に時代が下つて中世では、伯耆大山寺の領土は、少なくとも東は北栄町、西は伯耆町あたりまで点在していましたよ

えを棄却する運動により大山

にはかなりの大寺院になっています。その裏付けとして、平安時代後期に大山の僧兵300人が神輿を担いで京都の院に強訴したことがあり、それが「中右記」という書物に記されています。そこから、はるばる山陰の地からの上洛に京の人々が驚いた様子がうかがえます。

るのはほんのわずかに過ぎません。

大山寺は、南光院・西明院・中門院の三院の寺院集団で構成されていました。しかし、その各々が利権争いで院を焼払つたりして、多くの貴重な文化遺産が焼失したと考えられます。更に、明治8年の神仏分離令と廃

専門家です。それぞれの分野か

ら大山寺僧坊跡とそこに残るあらゆる文化財について多方面から調査を進めて、伯耆大山寺の歴史を解明していくこうというも

のです。委員会の活動は、今年で3年目になります。

ら大山寺僧坊跡とそこに残るあ

るのと、遅くとも平安時代末期に造られた仏像で現在残つて

いるのはほんのわずかに過ぎません。その裏付けとして、平安時代後期に大山の僧兵300人が神輿を担いで京都の院に強訴したことがあり、それが「中右記」という書物に記されています。そこから、はるばる山陰の地からの上洛に京の人々が驚いた様子がうかがえます。

るのはほんのわずかに過ぎません。

大山寺は、南光院・西明院・中門院の三院の寺院集団で構成

されていました。しかし、その各々が利権争いで院を焼払つたりして、多くの貴重な文化遺産

が焼失したと考えられます。更に、明治8年の神仏分離令と廃

えを棄却する運動により大山

寺の称号も一時使われなくなりました。（明治35年に復興）わずかに残つた大山寺縁起（当時

3年の大日堂の火災で焼失してしまいました。ですから現在

残つている大山寺の文化財は数

多くの戦禍をくぐり抜けてきた貴重なものばかりです。

まずは、大山寺僧坊跡の広がり

を確認するために、測量調査を

3年間実施してきました。その

結果、次の4か所の僧坊跡群を

確認しました。

まず、大山寺僧坊跡の広がり

を確認するために、測量調査を

3年間実施してきました。その

結果、次の4か所の僧坊跡群を

確認しました。